

別紙2  
別表1

課程	区分	科目	時間数
居宅介護 職員初任 者研修課 程	講義 及び 演習	職務の理解 必要に応じて、施設見学等の実習を活用することも可能。 (1)多様なサービスと理解 (2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	6
		介護における尊厳の保持・自立支援 (1)人権と尊厳を支える介護 (2)自立に向けた介護	9
		介護の基本 (1)介護職の役割、専門性と多職種との連携 (2)介護職の職業倫理 (3)介護における安全の確保とリスクマネジメント (4)介護職の安全	6
		介護・福祉サービスの理解と医療の連携 (1)介護保険制度 (2)医療と連携とりハビリテーション (3)障がい者総合支援制度およびその他制度	9
		介護におけるコミュニケーション技術 (1)介護におけるコミュニケーション (2)介護におけるチームのコミュニケーション	6
		老化の理解 (1)老化に伴うこととからだの変化と日常 (2)高齢者と健康	6
		認知症の理解 (1)認知症を取り巻く状況 (2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 (3)認知症に伴うこととからだの変化と日常生活 (4)家族への支援	6
		障がいの理解 (1)障がいの基礎的理解 (2)障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識 (3)家族の心理、かかり支援の理解	3
		こととからだのしくみと生活支援技術 介護に必要な基礎知識の確認及び生活支援技術の習得状況の確認を行うこと。 (1)基本知識の学習(10～13時間) ア 介護の基本的な考え方 イ 介護に関することとからだのしくみの基礎的理解 ウ 介護に関することとからだのしくみの基礎的理解 (2)生活支援技術の講義・演習(50～55時間) ア 生活と家事 イ 快適な居住環境整備と介護 ウ 整容に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 エ 移動・移乗に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 オ 食事に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 カ 入浴・清潔保持に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 キ 排泄に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 ク 睡眠に関連したこととからだのしくみと自立に向けた介護 ケ 死にゆく人に関連したこととからだのしくみと終末期介護 (3)生活支援技術演習(10～12時間) ア 介護過程の基礎的理解 イ 総合生活支援技術演習	75
		振り返り 必要に応じて、施設見学等の実習を活用することも可能。 (1)振り返り (2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	4
			130

修了評価(1時間以上)  
全科目修了後に筆記試験による修了評価を  
実施すること。

別表2

課程	区分	科目	目的	内容	時間数	備考
障害者居宅介護従業者基礎研修課程	講義	福祉サービスを提供する際の基本的な考え方にに関する講義	福祉サービスを提供するにあたっての基本視点を形成する	・QOL等、主要な福祉理念 ・豊かな人間観 ・生活者としての援助対象の把握、生涯発達の視点、自己実現の視点、等 ・他者理解と共感 ・自立支援 ・経済・身体的自立と精神的自立、役割意識とプライド、能動性・主体性 ・利用者の自己決定	3	
		障害者福祉及び老人保健福祉に係る制度及びサービス並びに社会保障制度に関する講義 (1)障害者(児)福祉の制度とサービス (2)老人保健福祉の制度とサービス	障害者(児)福祉の制度とサービスの種類、内容、役割を理解する 介護保険制度を中心とした老人保健福祉の制度とサービスについて理解する (介護保険制度に関する内容を中心とした講義内容とする)	・障害者(児)福祉の背景と動向 ・障害者(児)福祉の制度とサービスの種類、内容とその役割 ・障害者(児)福祉に関連する制度、施策 ・老人保健福祉の背景と動向 ・介護保険制度の概要とサービスの理解 ・その他の老人保健福祉の制度とサービスの理解 ・医療・年金・生活保護制度・住宅施策等その他老人保健福祉に関する制度、施策	4	
	居宅介護に関する講義	・居宅介護サービスの役割と業務を理解する ・居宅介護サービスに従事する際の職業倫理について理解する ・サービス提供時における利用者の人権の尊重について理解する (介護保険制度における運営基準等についての内容や考え方について含める) (職業倫理、人権の尊重について重点的項目として取り上げる)	・居宅介護サービスの社会的役割 ・居宅介護サービスの制度と業務内容 ・介護保険制度における運営基準等の理解 ・チーム運営方式の理解 ・24時間対応巡回型居宅介護サービスの理解 ・相談支援事業実施施設等関係機関との連携 ・介護保険制度における居宅介護支援との連携 ・近隣・ボランティア等との連携 ・関連職種の基本知識 ・居宅介護サービス業務においてとるべき基本的態度 ・福祉業務従事者としての倫理 ・サービス提供における利用者の人権の尊重、プライバシーの保護等(事例を用いて理解を深めることが、望ましい)	3	居宅介護従業者の職業倫理に関する講義を行うこと	
	障害者及び老人の疾病、障害者等に関する講義	・障害者(児)、高齢者の心身の特徴と生活像を把握し、援助の基本的な方向性を理解 ・障害者(児)、高齢者の家族に対する理解を深める	・障害者(児)、高齢者の心身と生活像の理解 ・障害者(児)、高齢者への援助 ・障害者(児)、高齢者の家族の理解と援助	3		
	基礎的な介護技術に関する講義	・介護の目的と機能を理解し、介護の基本原則を把握する ・在宅介護の特徴とすすめ方を把握する	・介護の目的、機能と基本原則 ・介護ニーズと基本的対応 ・在宅介護の特徴とすすめ方 ・介護におけるリハビリテーションの視点 ・福祉用具の基礎知識と活用 ・チームケアの考え方 ・介護者の健康管理	3		
	家事援助の方法に関する講義	・障害者(児)、高齢者への家事援助の目的と機能を理解し、その方法を学習する ・障害者(児)、高齢者への家事援助に必要な栄養、調理、被服、住宅管理等の知識を学習する	・家事援助の目的、機能と基本原則 ・家事援助の方法 ・家事援助における自立支援 ・障害者(児)、高齢者と栄養、食生活のあり方 ・食品の保存・管理 ・ゴミの始末、調理器具、食器等の衛生管理 ・障害者(児)、高齢者への調理技術(味付け、きざみ食等) ・糖尿病、高血圧等に対応する特別食 ・障害者(児)、高齢者と被服 ・快適な室内環境と安全管理	4		
	医学等の関連する領域の基礎的な知識に関する講義 (1)医学の基礎知識 (2)心理面への援助方法	障害者(児)、高齢者の在宅生活援助に役立つ知識を中心に家庭の医学・在宅看護の基礎知識を理解する (介護保険法の対象となる特定疾病の概要を加える) 障害者(児)、高齢者の在宅生活援助に関連する心理面への援助方法を理解する	・日常的な疾患の基礎知識と予防、対処方法 ・風邪、発熱、腹痛、火傷、骨折、食中毒等 ・感染症の理解と予防 ・MRSA、B型肝炎、疥癬、梅毒等 ・身体の観察 ・観察の視点、体温測定、血圧測定等 ・薬の飲み合わせと保管 ・医療関係制度の基礎知識 ・介護保険法における特定疾病の概要 ・心理面への援助の必要性と方法 ・レクリエーションの視点と実際	5		
演習	福祉サービスを提供する際の基本的な態度に関する演習	サービスの利用者になった理解とサービス提供者としての基本的態度を形成する	ロールプレイ等の方法によるサービス提供場面の演習を通して、サービス利用者に対する共感的理解と基本的態度を形成する 訪問・退出時の挨拶 傾聴の態度、信頼関係の形成 物の処分・移動における言葉かけ 銀行入金代行業務や買物業務時の注意点(レシートの取得等) できないことの拒否の仕方 助言の仕方 痴呆性高齢者等とのコミュニケーション 視覚・聴覚障害者とのコミュニケーション等 *親密さと無礼の境目(「クちゃん」等の幼児語使用)等にも留意して演習のこと	4		
	基礎的な介護技術に関する演習	食事、排泄、入浴、移動・移乗、その他在宅介護を行うにあたっての基礎的な介護技術を修得する	・食事の介護 ・排泄・尿失禁の介護 ・体位・姿勢交換の介護(座位保持、褥瘡への対応を含む) ・車椅子への移乗、車椅子等での移動の介護 ・身体の清潔(清拭、洗髪、口腔ケア等)の方法 ・緊急時対応法(骨折、火傷、てんかん発作、化学物質による中毒)等 *姿勢による食物の喉の通り方を体験するため弁当等を用いて実際に食事介護する等、可能な限り実践的な講習とする	10		
	事例の検討等に関する演習	居宅介護サービスにおける援助方法と実際について共通の理解を図る	現在のサービス提供責任者等を囲んで、事例検討や実践的内容のグループ討議を行う 事例検討、記録のつけ方、上司への報告・相談の行い方等	3		
実習	生活介護を行う事業所等のサービス提供現場の見学	・在宅サービスの提供現場の見学を通して、その役割・機能を理解する ・居宅介護サービスと他サービスとの連携のあり方等、在宅生活者への総合的支援のあり方について学習する	・居宅介護サービス同行訪問見学 ・デイサービスセンター見学 (訪問看護同行訪問見学、相談支援事業に係る職員同行訪問、「在宅介護サービスガイドライン」の内容を満たす民間事業者が実施する在宅サービス同行訪問見学等に代えることができる) *実習方法の弾力的運用 在宅サービス提供現場見学については、見学時間の概ね半数を越えない範囲内で、ビデオ学習をもって同行訪問見学に代えることができる	8		
合 計					50	

別表3

課程	区分	科目	目的	内容	時間数	備考
重度訪問 介護従業 者養成研 修課程・ 基礎課程	講義	重度の肢体不自由者の地域生活等に関する講義	重度の肢体不自由者の地域生活等について理解する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度訪問介護の社会的役割</li> <li>・重度訪問介護の制度と現状</li> <li>・重度訪問介護の基本</li> <li>・関係機関との連携</li> <li>・重度訪問介護に従事する者の職業倫理について</li> </ul>	2	重度訪問介護に従事する者の職業倫理に関する講義を行うこと。
		基礎的な介護技術に関する講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の目的と機能を理解し、介護の基本原則を把握する</li> <li>・在宅介護の特徴と進め方を把握する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の目的、機能と基本原則</li> <li>・介護ニーズと基本的対応</li> <li>・在宅介護の特徴と進め方</li> <li>・介護におけるリハビリテーションの視点</li> <li>・福祉用具の基礎知識と活用</li> <li>・ターミナルケアの考え方</li> <li>・介護者の健康管理</li> </ul>	1	
	実習	基礎的な介護と重度の肢体不自由者とのコミュニケーションの技術に関する実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事、排泄、移動・移乗、その他在宅介護を行うにあたっての基礎的な介護技術を習得し、重度の肢体不自由者への接し方を習得する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の介護</li> <li>・排泄、尿失禁の介護</li> <li>・体位・姿勢交換の介護(座位保持、褥瘡への対応含む。)</li> <li>・衣類着脱の介護</li> <li>・身体の清潔(洗髪、清拭、口腔ケア等)の介護</li> <li>・重度の肢体不自由者への接し方</li> </ul>	5	
		外出時の介護技術に関する実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすへの移乗に際しての抱きかかえ方や移乗の方法を習得する</li> <li>・車いすへでの移動を介助する場合の車いすの取り扱い方や平地、階段での移動方法などを習得する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・床と車いす間の移乗</li> <li>・ベッドと車いす間の移乗</li> <li>・2人の介助者で行う場合</li> <li>・車いすの取り扱い方</li> <li>・車いす移動介助における注意</li> <li>・平地での移動</li> <li>・階段における移動</li> <li>・エレベーター、エスカレーターの利用</li> <li>・乗り物を利用する場合の注意</li> <li>・歩行移動介助方法の留意点</li> </ul>	2	
合 計					10	

別表4

課程	区分	科目	目的	内容	時間数	備考
重度訪問 介護従業 者養成研 修課程・ 追加課程	講義	医療的ケアを必要とする重 度訪問介護利用者の障害 及び支援に関する講義	在宅生活援助に必要な医学・ 在宅看護の基礎的な知識を 理解し、重度訪問介護利用 者への介護方法について学	・日常的な疾患の基礎知識と予防・対処方法 ・感染症の理解と予防 ・身体の観察 ・安全な介護方法(食事、清拭、洗髪等) ・薬の飲ませ方と保管 ・医療関係制度の基礎知識	4	
		コミュニケーションの技術に 関する講義	重度の肢体不自由者につい ての理解を深め、障害のある 人への接し方を学ぶ	・重度の肢体不自由障害の種類と特徴 ・重度の肢体不自由障害のある人への接し方と意思疎通 方法とその留意点等	2	
		緊急時の対応及び危険防 止に関する講義	サービス提供時に起こりうる緊 急時の対応と危険防止の方 法を学ぶ	・緊急時における連絡・連携と介護職員の役割 ・介護提供時の事故防止の留意点と対処のしかた ・緊急時の対処のしかた	1	
	実習	重度の肢体不自由者の介 護サービス提供現場での実 習	実際にサービス提供を実施し ている現場で、介護従事者の 利用者への対応等を習得す	・食事の介助方法 ・衣類着脱の介助方法 ・排泄の介助方法 等 在宅等で生活する障害程度区分5又は6である肢体不 自由者に対して、実際のサービス提供現場での介護を体 験する	3	
合 計					10	

この表に定める研修の課程は、別表3に定める内容以上の研修の課程を修了した者を対象として行われるものとする。

別表5

課程	区分	科目	目的	内容	時間数	備考
重度訪問介護従業者養成研修課程・統合課程	講義	重度の肢体不自由者の地域生活等に関する講義	重度の肢体不自由者の地域生活等について理解する	・重度訪問介護の社会的役割 ・重度訪問介護の制度と現状 ・重度訪問介護の基本 ・関係機関との連携 ・重度訪問介護に従事する者の職業倫理について	2	社会福祉士及び介護福祉士法施行規則(昭和62年厚生省令第49号)附則第4条及び第13条に係る別表第3第1号に定める基本研修(以下「基本研修」という。)に相当する研修課程
		基礎的な介護技術に関する講義	・介護の目的と機能を理解し、介護の基本原則を把握する ・在宅介護の特徴と進め方を把握する	・介護の目的、機能と基本原則 ・介護ニーズと基本的対応 ・在宅介護の特徴と進め方 ・介護におけるリハビリテーションの視点 ・福祉用具の基礎知識と活用 ・ターミナルケアの考え方 ・介護者の健康管理	1	
		コミュニケーションの技術に関する講義	重度の肢体不自由者への接し方を理解する	・重度の肢体不自由者への接し方	2	
		喀痰吸引を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義	・喀痰吸引を必要とする重度障害者の障害と支援について理解する。 ・緊急時の対応及び危険防止について理解する。	呼吸について ・呼吸異常時の症状、緊急時対応 ・人工呼吸器について ・人工呼吸器に係る緊急時対応 ・喀痰吸引概説 ・口腔内・鼻腔内・気管カニューレな損傷の吸引 ・喀痰吸引のリスク、中止要件、緊急時対応 ・喀痰吸引の手順、留意点 等	3	基本研修に相当する研修課程
		経管栄養を必要とする重度障害者の障害と支援に関する講義・緊急時の対応及び危険防止に関する講義	・経管栄養を必要とする重度障害者の障害と支援について理解する。 ・緊急時の対応及び危険防止について理解する。	健康状態の把握 ・食と排泄(消化)について ・経管栄養概説 ・胃ろう(腸ろう)と経鼻経管栄養 ・経管栄養のリスク、中止要件、緊急時対応 ・経管栄養の手順、留意点 等	3	基本研修に相当する研修課程
	実習	喀痰吸引等に関する演習	手順の確認等を行いイメージをつかむ。	・喀痰吸引(口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部) ・経管栄養(胃ろう・腸ろう・経鼻)	1	基本研修に相当する研修課程
	実習	基本的な介護と重度の肢体不自由者とのコミュニケーションの技術に関する	食事、排泄、移動・移乗、その他在宅介護を行うにあたっての基礎的な介護技術を習得し、重度の肢体不自由者への接し方を習得する	・食事の介護 ・排泄、尿失禁の介護 ・体位・姿勢交換の介護(座位保持、褥瘡への対応含む。) ・衣類着脱の介護 ・身体の清潔(洗髪、清拭、口腔ケア等)の介護 ・重度の肢体不自由者への接し方	3	
		外出時の介護技術に関する実習	・車いすへの移乗に際しての抱きかかえ方や移乗の方法を習得する ・車いすへでの移動を介助する場合の車いすの取り扱い方や平地、階段での移動方法などを習得する	・床と車いす間の移乗 ・ベッドと車いす間の移乗 ・2人の介助者で行う場合 ・車いすの取り扱い方 ・車いす移動介助における注意 ・平地での移動 ・階段における移動 ・エレベーター、エスカレーターの利用 ・乗り物を利用する場合の注意 ・歩行移動介助方法の留意点	2	
		重度の肢体不自由者の介護サービス提供現場での実	実際にサービス提供を実施している現場で、介護従事者の利用者への対応等を習得する	・食事の介助方法 ・衣類着脱の介助方法 ・排泄の介助方法 等 在宅等で生活する障害程度区分5又は6である肢体不自由者に対して、実際のサービス提供現場での介護を体験する	3.5	
		合 計			20.5	

この表に定める研修の課程は、別表3、別表4並びに社会福祉士及び介護福祉士法施行規則附則第4条及び第13条に係る別表第三第一号に定める内容を含むものとする。

別表6

課程	区分	科目	目的	内容	時間数	備考	
重度訪問 介護従業 者養成研 修行動障 害支援課 程	講義	強度行動障害がある者の 基本的理解に関する講義	強度行動障害がある者の基 本的理解を得る	強度行動障害の理解 ・支援の基本的考え方 ・強度行動障害の状態 ・行動障害が起きる理由 ・障害特性の理解	1.5		
		強度行動障害に関する制 度及び支援技術の基礎的 な知識に関する講義	強度行動障害に関する制度 及び支援技術の基礎的な知 識に関して理解する	研修の意義 ・行動障害と虐待防止 ・家族の気持ち/実践報告 支援のアイデア ・障害特性に基づいた支援 チームプレイの基本 ・チームプレイの必要性 実践報告 ・児童期及び成人期における支援の実際	5		
	演習	基本的な情報収集と記録 等の共有に関する演習	基本的な情報収集と記録等 の共有に関して演習する	基本的な情報収集 ・行動を見る視点	1		
		行動障害がある者の固有の コミュニケーションの理解に 関する演習	行動障害がある者の固有のコ ミュニケーションの理解に関し て演習する	チームプレイの基本 ・支援手順書に基づく支援の体験 強度行動障害の理解 ・困っていることの体験	3		
		行動障害の背景にある特 性の理解に関する演習	行動障害の背景にある特性 の理解に関して演習する	特性の分析 ・特性の把握と適切な対応	1.5		
	合 計					12	

別表7

課程	区分	科目	目的	内容	時間数	備考
同行援護 従業者養 成研修課 程・一般 課程	講義	視覚障害者(児)福祉サー ビスに関する講義	視覚障害者(児)福祉の制度 とサービスの種類、内容、役 割を理解する	・障害者福祉の背景と動向 ・視覚障害者(児)の制度とサービス	1	
		同行援護の制度と従業者 の業務に関する講義	同行援護の制度と従業者の 業務を理解する	・同行援護の制度 ・同行援護の従業者の業務	2	
		障害・疾病の理解 に関す る講義	業務において直面する頻度 の高い障害・疾病を医学的、 実践的視点で理解するととも に、援助の基本的な方向性を 把握する	・視覚障害についての理解 ・視覚障害の原因、疾病、症状、治療 ・見えの構造 ・同行援護の際の留意点	2	
		障害者(児)の心理 に関 する講義	視覚障害者(児)の心理に対 する理解を深め、心理的援助 のあり方について把握する	・先天性障害と途中障害の心理	1	
		情報支援と情報提供に関 する講義	移動中に必要な情報支援、 情報提供の基礎を習得する	・言葉による情報提供の基礎 ・移動中のの情報提供	2	
		代筆・代読の基礎知識に関 する講義	情報支援としての代筆・代読 の方法を習得する	・代筆・代読の方法	2	
		同行援護の基礎知識に関 する講義	同行援護の目的と機能を理 解し、基本原則を把握する	・基本的な考え方 ・視覚障害者への接し方	2	
	演習	基本技能に関する演習	基本的な移動支援の技術を 習得する	・基本姿勢と留意点 ・狭い場所の通り抜け ・方向転換 ・ドアの通行 ・椅子への着席 ・段差・階段を上る、下りる方法 ・交通機関の利用の基本 等	4	
		応用技能に関する演習	応用的な移動支援の技術を 習得する	・環境に応じた歩行 ・エレベーター・エスカレーター ・車の乗降方法 等	4	
合 計					20	

別表8

課程	区分	科目	目的	内容	時間数	備考
同行援護 従業者養 成研修課 程・応用 課程	講義	障害・疾病の理解 に関する講義	業務において直面する障害・疾病を医学的、実践的視点でより深く理解する	・弱視の見え方・見えにくさ ・重複障害者について 等	1	
		障害者(児)の心理 に関する講義	視覚障害者(児)の心理に対する理解を深め、適切な対応ができるよう習得する	・障害の受容 ・家族の心理 ・視覚障害者の人間関係 等	1	
	演習	場面別基本技能に関する演習	日常的な外出先での技術を習得する	・買い物の支援 ・雨・雪の日の支援 ・金銭・カードに関する支援 等	3	
		場面別応用技能に関する演習	目的に応じた外出先での技術を習得する	・病院・薬局での支援 ・式典・会議・研修などでの支援 ・冠婚葬祭での支援 等	3	
		交通機関の利用に関する演習	交通機関での移動支援技術を習得する	・電車・バス・飛行機・船の乗降 等	4	
合 計					12	

この表に定める研修の課程は、別表7に定める内容以上の研修の課程を修了した者を対象として行われるものとする。



別表9

課程	区分	科目	目的	内容	時間数	備考
行動援護 従業者養 成研修	講義	強度行動障害がある者の 基本的理解に関する講義	強度行動障害がある者の基 本的理解を得る	強度行動障害の理解 ・支援の基本的考え方 ・強度行動障害の状態 ・行動障害が起きる理由 ・障害特性の理解	1.5	
		強度行動障害に関する制 度及び支援技術の基礎的 な知識に関する講義	強度行動障害に関する制度 及び支援技術の基礎的な知 識に関して理解する	研修の意義 ・行動障害と虐待防止 ・家族の気持ち/実践報告 支援のアイデア ・障害特性に基づいた支援 チームプレイの基本 ・チームプレイの必要性 実践報告 ・児童期及び成人期における支援の実際	5	
		強度行動障害がある者へ のチーム支援に関する講義	強度行動障害がある者への チーム支援に関して理解する	支援を組み立てるための基本 ・強度行動障害の支援に必要な知識 組織的なアプローチ ・組織的なアプローチの重要性	3	
		強度行動障害と生活の組 立てに関する講義	強度行動障害と生活の組立 てに関して理解する	実践報告 ・チームによる支援の実際	0.5	
	演習	基本的な情報収集と記録 等の共有に関する演習	基本的な情報収集と記録等 の共有に関して演習する	基本的な情報収集 ・行動を見る視点	1	
		行動障害がある者の固有の コミュニケーションの理解に 関する演習	行動障害がある者の固有のコ ミュニケーションの理解に関し て演習する	チームプレイの基本 ・支援手順書に基づく支援の体験 強度行動障害の理解 ・困っていることの体験	3	
		行動障害の背景にある特 性の理解に関する演習	行動障害の背景にある特性 の理解に関して演習する	特性の分析 ・特性の把握と適切な対応	1.5	
		障害特性の理解とアッセ スメントに関する演習	障害特性の理解とアセスメン トに関して演習する	アセスメントの方法 ・具体的なアセスメントの方法 ・障害特性に基づくアセスメント	3	
		環境調整による強度行動障 害の支援に関する演習	環境調整による強度行動障 害の支援に関して演習する	手順書の作成 ・アセスメントに基づく支援手順書の作成	3	
		記録に基づく支援の評価に 関する演習	記録に基づく支援の評価に 関して演習する	記録の分析と支援手順書の修正 ・記録の方法 ・記録の分析と支援手順書の修正	1.5	
危機対応と虐待防止に関 する演習	危機対応と虐待防止に関し て演習する	関係機関との連携 ・関係機関(医療機関等)との連携の方法	1			
合 計					24	